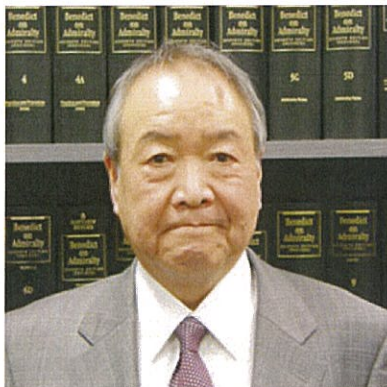


海難審判のプロフェッショナル
早朝ランが軽いフットワークの源

< 第398回 > 2013年3月4日掲載



マリタックス法律会計事務所
海事補佐人・船長 赤地 茂 氏

海運会社にとって安全運航が一番の大命題です。しかし、もし海難事故が起きてしまったら……。海難審判により、事故原因の究明や関係者への事情聴取が行われます。事故の当事者にかかる負担や労力は計り知れません。海難事故の際に事故原因を調査し、海難審判所で船長や乗組員に代わって状況を陳述し、手助けをしてくれる頼もしい存在が海事補佐人です。今回の会員探訪では、マリタックス法律会計事務所海事補佐人として活躍されている赤地茂さんにお話を伺いました。長年、航海士や船長として様々な商船に乗船されていた赤地さん。「事故にあった船の正当な利益を守り、乗組員の手助けをしたい」という強い思いを抱きながら、今日も現場へ向かいます。

—— 海事補佐人として普段はどんなお仕事をされているのですか。

「船舶の衝突、油濁、座礁などの海難事故の際、顧客が属しているP&Iクラブや損害保険会社の依頼で事故調査を行います。海難事故に関係した船長や乗組員から事情を聞き、海難審判所で説明や手続きを行い、交渉することが最も大きな仕事になります」

—— かつては船長として乗船されていたのですよね。

「そうです。商船大学を卒業してから海運会社に入社し、25年勤務しました。資格上の制約もあり、海事補佐人の多くが海事弁護士か、船長などの一級海技者です」

—— 船長として勤務された後、どうして海事補佐人を始められたのですか。

「今から20年前にマリタックス法律会計事務所の松井弁護士と知り合ったのですが、その時に海事補佐人の資格を持っている人を探されていたんです。それでお声がかかり、今の仕事を始めました。当時は、補佐人の仕事のほかP&Iクラブのサーベイヤー(海事鑑定人)も務めていました。松井先生とはその時からの付き合いになります」

【キーワード】 海事補佐人

海難事故の際、該当船舶に乗船していた船長などの関係者は海難審判で事故について事情聴取され、行政審判が行われますが、状況を正確に説明できなかったり、主張をうまく伝えられないケースがあります。その際、事故原因を調査し、海難審判所で船長などに代わって状況を陳述するのが海事補佐人です。

海事補佐人は、事故原因を究明し意見を代弁するだけでなく、証拠提出の手続き等も行います。また、海事補佐人になるには、弁護士、一級海技士の有資格者か、審判官や理事官か、海技教育機関で教諭を務めた職歴のある方々が国交省に申請して登録します。海事法務の専門家であり、「海技のプロ」と言えます。

—— 松井弁護士とは20年来の名コンビというわけですね。ところで、海事補佐人のやりがいとは何ですか。

「私たちの使命は審判で海難事故にあった船の利益を守り、船長や乗組員、船主、船舶管理会社の手助けをすることです。かつて私も乗船勤務をしていた時に、船が真っ二つに割れて仲間を失うという悲惨な事故を経験しました。ですので、こうして陸に上がった後も、乗組員を守る方の立場で仕事ができ本当に良かったと思っています。船長を訴追するような逆の立場の仕事だったら辛いですね。また、海難審判は裁判に近いものがありますから、やはり勝ちたいですね。あまり負けたことはないです(笑)」

—— 負けない秘訣とは。

「フットワークが軽いことが最重要ではないでしょうか。なるべく早く現場に行って、自分の目で見て、船長なり当事者と話し、徹底的に調査することに尽きると思います。「現場に答えがある」と私は思っています」

—— 海難事故が起きれば昼夜問わず、すぐに現場へ飛んでいくのですか。

「もちろんそうです。夜中にかかってくる電話は仕事の連絡がほとんどです。旅行などを突如キャンセルせざるをえないこともしばしばあります。お客さん次第になりますが、日本の損害会社の依頼だと、やはり日本人が派遣されますので、基本的には世界中どこへでも行きます」

—— いつ連絡がくるかと思うと、うかうかお酒も飲んでられませんね。

「いえいえ、お酒は夕方から普通以上に飲んでます(笑)。さすがに朝や昼から飲むことはそれほどありませんが」

—— 時間から察するに、家で晩酌されることが多いですか。

「そうですね。7~8年前までは居酒屋などで飲むことも多かったのですが、生活スタイルをガラッと変えました。今は早寝早起きをしており、8時半くらいに寝て3時半に必ず起床するようにしています。起床後、1時間ほど身支度やメールの確認をして、4時半から2時間ほどランニングをします。終わったらラジオ体操ですね」

—— 驚きですね。何キロくらい走られますか。

「平日は10キロ、週末は20キロです。出張した時以外は毎日走ります。月300キロくらいになります」

— 月300キロですか！？すごいですね。年間にすると3600キロになります。私の車の年間走行距離よりも多いです。大会にも出場していらっしゃるんですか。

「大会にもたまに出場しますが、あまり好きではないですね。毎日ゆっくり走るのが好きです。真っ暗闇の中を走り出して、ちょうど終わるころにおひさまが出てきたりして、気持ち良いですよ」

— ランニング以外のご趣味は。

「読書です。推理小説が好きで、日本の作家では松本清朝が好きです。娘婿が北欧人なので、今はデンマークやスウェーデンの推理小説を中心に読んでいます。北欧というと馴染みは薄いかもしれませんが、最近注目されたものでは『ドラゴン・タトゥーの女』などがあります」

— おすすめは。

「今ちょうど電車の中で読んでいるのですが、デンマークの作家ユッス・エーズラ・オールスン氏書いた『特捜部Q—Pからのメッセージ』です。デンマークを舞台にしたミステリーの特捜部Qシリーズ最新作です。ベストセラーになっているので、日本語版ももちろん出版されています。ただ、北欧の小説は英語に翻訳されたものをさらに日本語に訳すことも多く、原書が出版されてからタイムラグがあります」

— 年間何冊くらい読まれますか。

「月に10冊くらい読んでいます。本屋では買わず、図書館で借りています」

— こちらもランニング同様かなりのハイペースですね。

「あくまでもマイペースです(笑)」

(会員探訪は3月から毎月第1日曜日に更新します。次回<第399回>の掲載は4月1日です)

【プロフィール】

(あち・しげる)1969(昭和44)年東京商船大学航海科卒業、同年三光汽船入社。1972年同社からの派遣により東京商船大学専攻科(現大学院)に入学。卒業後、再び乗船勤務に戻る。国立広島商船高等専門学校教官、三光汽船シアトル駐在事務所代表を経て、1994年三光汽船退社。その後、海事補佐人となる。船員を志したのは「小さい頃から外国に行ってみたかったから」。1946(昭和21)年7月14日生まれ、66歳。埼玉県出身。

マリタックス法律会計事務所HP : <http://www.marinelaw.jp/j/index.html>



記事一覧に戻る